

ろうさい病院 つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

当院での人間ドックについて

治療就労両立支援センター 予防医療部長
第二健康診断部長 (兼務)

金井 彰夫



今回は4月に名称変更となった治療就労両立支援センター予防医療部での取り組みの柱である人間ドックについて紹介します。

当予防医療部での人間ドックは、これまで勤労者予防医療センターで行ってきた脳・心臓疾患予防のための労災二次健診において長年培ったノウハウを最大限に生かして、医師による詳細な結果の説明や指導だけでなく、経験豊かな産業保健師・管理栄養士・理学療法士からそれぞれの問題点について他施設に類を見ない専門的なコメントをしているのが最大の特徴です。また、病院の各専門分野と密に連携して診断やその後の精密検査をより効率的に行えるフォローアップ・バックアップ体制が整っており、受診者満足度、質がともに高くリピーターの多い人間ドックになっています。病院併設型の人間ドックのため、動線がやや長く受診者数の制限などという弱点はありますが、逆にそれを強みにして一日の受診者数を最大5名までとし、ゆったりとした時間と清潔な癒しの空間が

確保されており、宿泊ドック受診者には一流シェフによるフランス料理など高級感や快適性にも配慮しています。4月には人間ドック健診施設評価の認定を更新し、新規の受診希望者も年々増加しています。

また、新たに女性医師（渡会医師）が加わり、今後女性スタッフのみによる女性のための女性に優しい人間ドック実施が可能となり、女性が健康で輝き活躍する社会を支援し応援できる体制が整いつつあります。さらに、今後到来する超高齢化社会におけるサルコペニアに伴うフレイルを予防するために、その効果的な指導法を開発する予防医療モデル事業を7月より人間ドック受診者を対象に開始しました。

先生方は日頃数多くの慢性患者さんを診察されていると思いますが、当院での人間ドックを積極的に活用していただき、今後の診療にお役立ただければと思っています。患者さんのご希望があればぜひ当院での人間ドックをお勧めください。

心房細動のカテーテルアブレーション

循環器内科副部長 篠田 典宏



日頃は、病診連携においてたくさんの患者さんをご紹介いただきありがとうございます。

循環器内科スタッフ一同、地域の方々や先生方にお役に立てるよう、チーム医療にて日々、頑張っております。

今までろうさい病院では、虚血性心疾患を中心に診療をしていましたが、昨今、心房細動の患者さんの増加、また、カテーテルアブレーションの治療法が確立されつつある背景から、虚血性心疾患だけではなく不整脈の分野においても、全国的に標準的な治療を行い、地域医療に貢献する必要があることから、2年前から心房細動のカテーテルアブレーションの研修を重ねており、今年の6月から当院でも治療を実施できるようになりました。

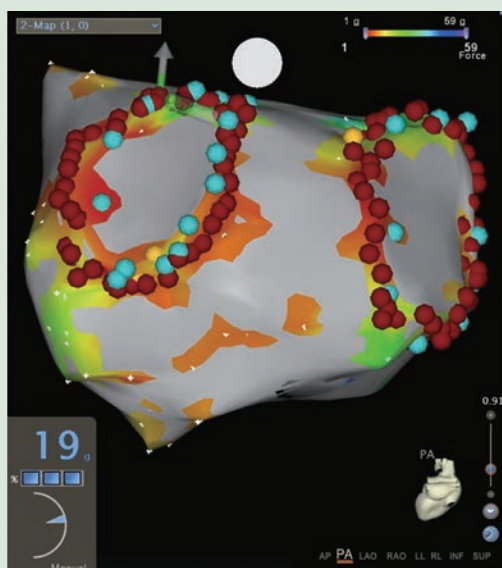
当院では、3Dマッピングとしてカルトを使用し、上下の肺静脈を円周状に一括で隔離する拡大肺静脈隔離術を行うことで、患者さんに負担の少ない安全な治療を目指しております。

心房細動は、発作を繰り返す発作性心房細動から、慢性心房細動へと移行していく進行性の病気です。薬物療法のみでは、心房細動は慢性化してしまうことが多いですが、その一方で、カテーテルアブレーションは、発作性心房細動

に対しての治療としては確立されつつあり、成功率も高いことから、早い段階でカテーテルアブレーションを検討したほうが良いことが言われています。

先生方のご診療において、心房細動の患者さんがおられましたら、是非、早期にご紹介していただけると幸いです。その際は、虚血性心疾患に対するPCI(経皮的冠動脈インターベンション)と同様に、紹介していただいた心房細動の患者さんに対して、当院にてカテーテルアブレーション治療を施行し、その後は、逆紹介により診療をお願いすることで、円滑な病診連携にて、先生方とともに地域医療に貢献していきたいと考えております。

今後ともよろしくお願いたします。



当院のNST活動

耳鼻咽喉科部長 安藤 篤



最近すっかり秋らしくなってきたと思えば、もう11月。冬がそこまでやっています。

皆様におかれましては、お元気にお過ごしでしょうか。風邪など召されないようにお気を付けください。

昨今チーム医療の重要性に関して、われわれ医療従事者間のみでなく、社会的にも重要性を指摘されており、新聞紙上などでもチーム医療に関する内容をよく目にします。当院でもチーム医療を推進するべく、いくつかの取り組みが行われています。

その一つとして、栄養サポートチーム（「NST」と以下略）があります。今回は私が所属するNSTに関して当院での活動をご報告いたします。医食同源などという言葉がある通り、現在のように医学が発達する前から、食事の健康における重要性は指摘されていました。しかし、医療の発達とともに違う視点での介入が可能になり、食事の重要性をあまり意識しない時期が続いていました。NSTは1973年にボストンシティ病院で本格的に誕生したといわれています。その背景には中心静脈栄養法（TPN）の開発があり、適切に介入するために専門的な知識が求められたことにあります。その後、TPNの普及とともに、欧米諸国に普及し、日本でも本格的な全科型のNSTが1986年に鈴鹿中央病院、1990年に尾鷲総合病院に設立されました。2006年には診療報酬改定に伴い全国的に普及してきています。NSTの介入により、医療費の削減や医療の質の向上に貢献すると考えられています。

さて、当院でのNSTの歴史は2003年に開始されており、10年以上の歴史がある組織です。現在のメンバー構成は、外科医、内科医、耳鼻咽喉科医、嚥下認定看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師で構成されています。活動は週に1回メンバーで回診を行い、月に1度カンファレンスを行っています。回診する対象は病

棟より相談があった患者さんとなります。相談内容は主に次のようなものです。①栄養剤の内容、②TPNの内容、③食思不振に対する相談、④術前、術後の栄養管理に関する相談、⑤嚥下障害患者に関する相談などです。当院では栄養剤の種類も豊富に取り揃えており、高侵襲手術の術前後や褥瘡患者に対して、高たんぱくな栄養剤を補充するなどの取り組みを行っています。また、化学放射線療法 of 患者さんにも皮膚炎の軽減を目指して使用しています。相談件数は週に20件程度で推移しています。介入により、十分な効果があげられない症例もあり、質の向上が必要と考えますが、どうしたら良いのかまだ模索中というのが現状です。

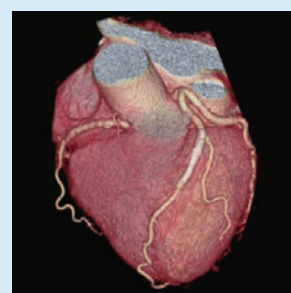
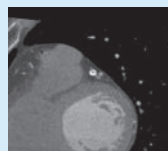
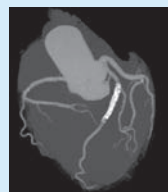
他の活動としましては、年に1度11月に外部の講師をお招きし、公開セミナーをおこなっております。毎年200名以上の参加をいただいております。NSTのチームとしても学会での報告を行い、当院での活動を報告し、外部と意見交換しております。また、栄養管理部としては、近隣の施設とも、食事の内容に関する勉強会を行っています。高齢化に伴い食事の問題を抱える患者さんが増えています。そのため、急性期病院と慢性期病院での連携をスムーズに行うためにも、勉強会を通して食事内容に関してもお互いが理解するというのが必要となります。実際に学会でも、嚥下困難者に対する、調整食の呼称の統一を提唱しております。改善すべき点は依然多い活動ですが、地域の先生方のお役に立てることはもちろん、地域の医療全体のお役にたてるためのツールとしてのNST活動をよりブラッシュアップしていきたいと考えております。

最後に、先生方におかれましては日頃の当院の活動にご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室だより

ご利用ください!! 【お知らせ】

- ・ 8列のCTを、64列のCTに更新いたしました。
- ・ 今回更新することにより64列のCTを2台有することとなり、高度な画像情報の収集・解析を必要とする臨床のリクエストの迅速に対応することが可能となります。
- ・ 冠動脈CTの撮影についても、従来の機器より低い放射線量で鮮明な画像を撮影することが可能となります。



ご利用は、地域医療連携室へお申込みください!!

医師交代

☆退職 (平成26年6月30日付)
井上 虎吉 リハビリテーション科部長
前田 基博 泌尿器科医師
龍華 章裕 腎臓内科医師
☆退職 (平成26年8月31日付)
原田 一宏 循環器内科医師
☆採用 (平成26年7月1日付)
片山 良仁 第五整形外科部長
第二脊椎部長 (兼務)
木村 祐介 泌尿器科医師

☆採用 (平成26年11月1日付)
井上 虎吉 リハビリテーション科医師 (嘱託)
☆補職 (平成26年7月1日付)
田中 宏太佳 リハビリテーション科部長
加藤 文一 第二検査科部長
原田 憲 第二循環器内科部長
☆補職 (平成26年8月1日付)
八谷 カナン リハビリテーション科副部長
☆補職 (平成26年9月1日付)
中島 英太郎 糖尿病内分泌内科部長
栄養管理部部長 (兼務)

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- ・ 医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・ 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・ 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・ 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・ 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30)
052-652-5950 (TEL)
052-652-5716 (FAX)

室長: 加藤 文彦 (院長代理)
藤田 芳郎 (副院長)
事務担当: 今関 信夫・高間 仁美・
内藤 遵子・金井 久実